

健康教育

- ☆ 「自ら健康づくりに取り組む子の育成」をめざして 石川 勉 …………… 2
- ☆ 子どもが生きる健康づくり
— 生涯にわたって、健康生活に自ら立ち向かういなぶっ子の育成 —
金田喜兵衛…………… 7
- ☆ 北風の中で強く生きる屏風山の子ども
— 健康な心と体づくりにはげむ — 平間ヌエ ……………12

1990年度健康優良学校 全国特別優秀校の3校

左から4人ずつ越水(小)、間門(小)、稲武(小)
の各校長、PTA代表、男女児童代表

<朝日新聞社提供>

1990年度 全日本健康優良学校表彰式

主催 朝日新聞社 後援 文部省 厚生省



NO111

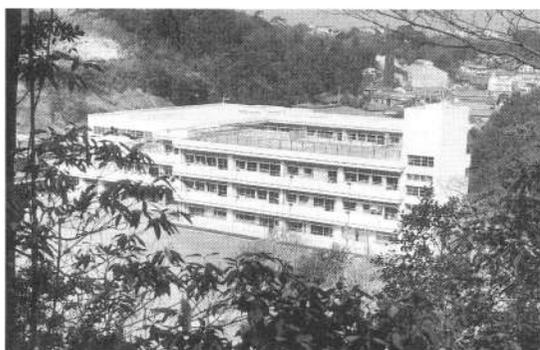
「自ら健康づくりに取り組む子の育成」 をめざして



神奈川県横浜市立間門小学校

校長 石川 勉

1. 学校と地域の概要



環境に恵まれた間門小学校

学区は、横浜市の中心、中区本牧に位置し、横浜港にも近い。一部に商店街をかかえるものの、住宅地が大部分を占めている。ところが、近年、新本牧地区の開発により、住宅地域が拡張され大型の集合住宅やレストランが立ち並び始め、学区はその様相を変えつつある。それに従い、他地域からの転居住民も増えつつある。

学校の南側は、一部工業地帯となっているが、海の埋め立てによって造られた「本牧市民公園」と全国からの見学者で絶えない「三溪園」に隣接し、学校の周囲には緑が多い。このように、市街地にある学校としては、自然環境に恵まれた立地条件にある。

一方、地域や父母の教育への関心は高く、協力的かつ積極的である。特に、PTAは、本校が健康教育をめざしている『自ら健康づくりに取り組む子の育成』にむけた活動を展開し、側面から協力している。

本校は、虚弱児の心身鍛錬校として、昭和5年に創立された。風光明媚な山あり、海ありの立地環境のもと、「心身一如」を建学の礎に、横浜市の健康教育の先駆として歩み始め、本年度61年目を迎える。特に、体育科を中心とする研究は、40年間継続している。現在、児童数809名、24学級の大規模校である。

本校の自慢は、日本唯一の海水水族館及び都市の学校としては珍しい自然林を有していることである。中腹のアスレチックの施設は、児童にとって自然と一体となった魅力ある遊び場に、そして体力づくりの場になっている。ほかにも、広い二面の運動場や体験学習用の施設が整っているなど、最適の教育環境にある。



夢の遊び場 間門の森

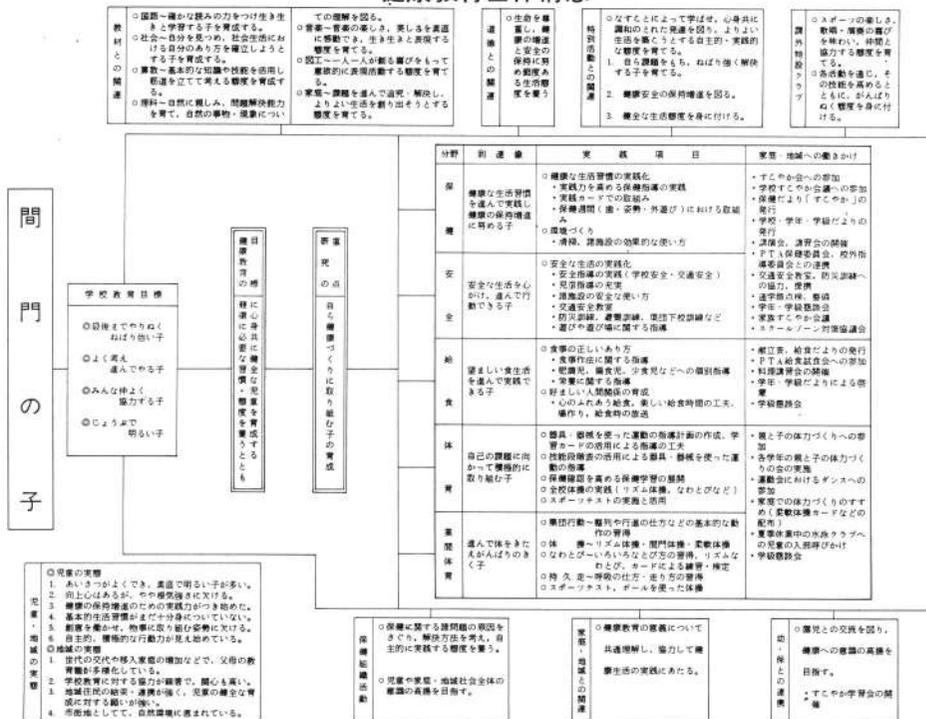
2. 健康教育と学校経営

本校は、「健康は、人間のあらゆる活動の基盤であり、健康の保持増進は、学校や家庭生活においても最重要な教育課題である。」と考え、健康教育を学校経営の核に据え、「心身ともに健全な児童の育成」をめざしている。

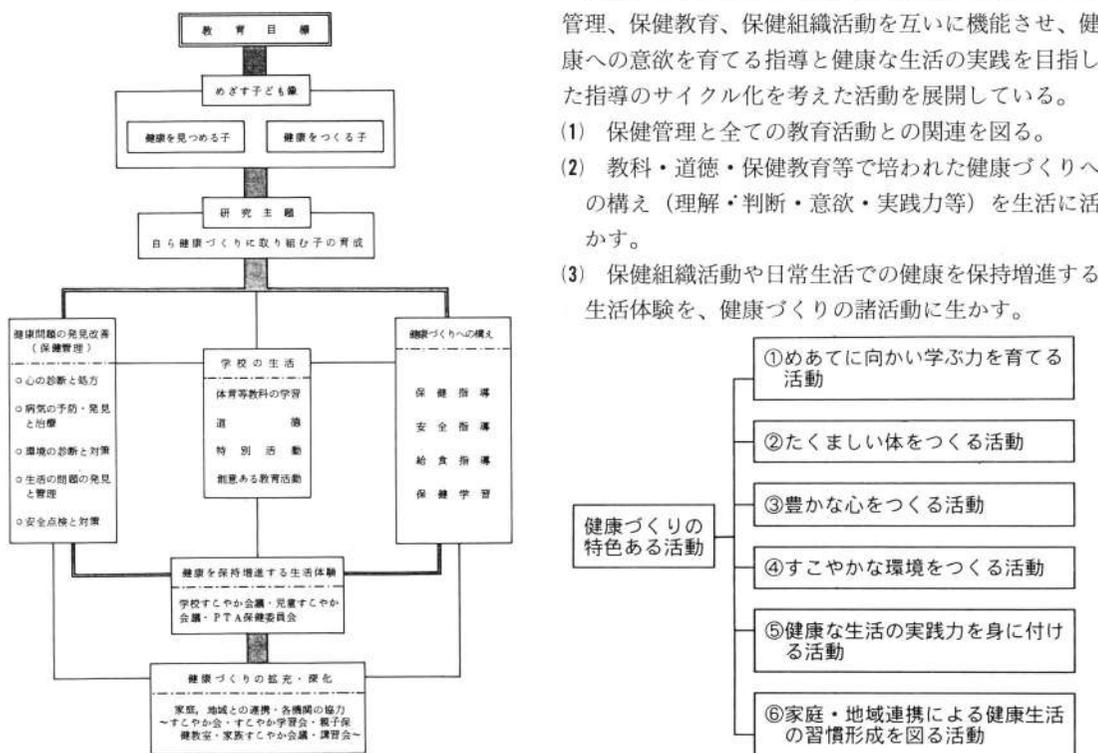
そのために、右図のような《健康教育全体構想》を明らかにするとともに、重点目標及び実践項目を掲げ各教科・道徳・特別活動・課外での活動をはじめとする全ての教育活動の充実を期している。

これを推進する機関として、“健康教育推進委員会”を設け、関係する委員で構成し、学校の全教育活動に機能するようにしている。

健康教育全体構想



《健康づくりを進める構造図》



3. 健康づくりと特色ある教育活動

健康づくりに当たっては、左図に示すように、保健管理、保健教育、保健組織活動を互いに機能させ、健康への意欲を育てる指導と健康な生活の実践を目指した指導のサイクル化を考えた活動を展開している。

- (1) 保健管理と全ての教育活動との関連を図る。
- (2) 教科・道徳・保健教育等で培われた健康づくりへの構え（理解・判断・意欲・実践力等）を生活に活かす。
- (3) 保健組織活動や日常生活での健康を保持増進する生活体験を、健康づくりの諸活動に生かす。

(1) めあてに向かい学ぶ力を育てる活動

- ①教科・領域等の重点目標を設定した授業の充実。
- ②生き生きと学習に取り組む子の育成（個に応じた指導の展開）

(2) たくましい体をつくる活動

- ①めあてに向かい、生き生きと取り組む「体育学習」の指導法の研究。（個に応じた体育学習）
- ②一人一人がめあてを持ち、楽しく意欲的に取り組む「すこやかタイム（業間体育）」の充実。



生き生き取り組む
すこやかタイム

○年間を通して、リズムなわとび、柔軟体操、リズム体操・持久走等を週に2回実施。

- ③親子のふれ合いを深め、運動に親しみ、体力づくりの輪を広げる「親と子の体力づくりの会」。（年9回実施）
- ④4年生以上が参加し、スポーツの楽しさを味わい、体力を高める早朝特別クラブ（サッカーやバスケットボール）の活動。
- ⑤アスレチックや鉄棒遊び等、恵まれた環境を活かした遊び時間の体力づくり。



親と子の体力づくりの会

- ⑥全学年を対象とした泳力、記録の向上をめざす夏休みの水泳クラブの活動・体験学習を兼ねた2泊3日の6年水泳合宿の実施。
- ⑦学校裁量の時間を活用して実施する全校歩き遠足や球技大会。

(3) 豊かな心をつくる活動

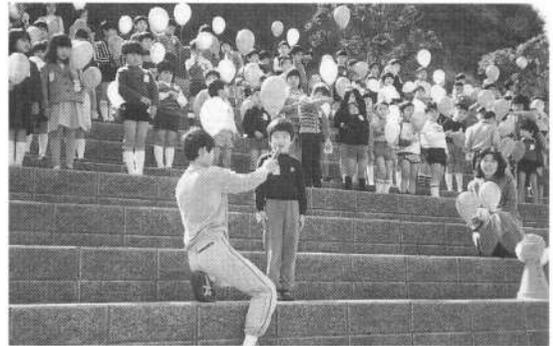
- ①音楽の楽しさ、音楽を愛する豊かな心情を育む七夕音楽会・音楽集会・音楽を聴く会。



気持ちを一つに美しい
ハーモニー（七夕音楽会）

- ②児童の自主性を伸ばし、児童のふれ合いを深め思いやりの心を育む児童主催の児童会活動。

○一年生を迎える会・子供運動会・作品展等



一年生を迎える会（児童会主催）

- ③異学年どうしが仲良く活動し、思いやりの心、協力し合う態度を育む活動。

- 全校歩き遠足・球技大会（創意の時間）
- ふれあい給食（学校給食）
- 毎週木曜日実施の縦割り児童集会



異学年どうしの児童集会（木曜日実施）



噴水池を囲んで楽しい野外でのふれあい給食

(4) すこやかな環境をつくる活動

- ①児童・教職員の創意・工夫を活かし、手作りの美しい環境を保つ花壇づくり。
- ②健康への関心を高める環境づくり。
 - すこやか学習室及び保健コーナーの設置・活用
- ③勤労活動を通じた環境美化の活動。
 - 全校草取り・地域清掃活動・清掃強調週間の設定



学級の保健コーナー



手作りの美しい環境づくり（教職員の活動）

(5) 健康な生活の実践力を身に付ける活動

- ①生活の中に生きて働く実践力を育てる保健指導・安全指導・給食指導の充実。
- ②歯みがきの習慣の定着をめざし、健康な歯で自分で守る活動。
 - 給食後の「歯みがきタイム」の活動
 - 毎月の歯みがき強調週間での重点的活動（歯みがきカレンダーの活用）
- ③各学期の保健週間における全校の取り組み。
 - 歯・寒さに負けない体づくり・姿勢・外遊び
 - よい歯の児童表彰
 - 保健集会の実施



保健委員会の計画による縦割り保健クイズ集会

歯みがきカレンダー～わたしのは

4月 “かがみみて けさきをばにあててみよう”

(4月15日～4月21日)

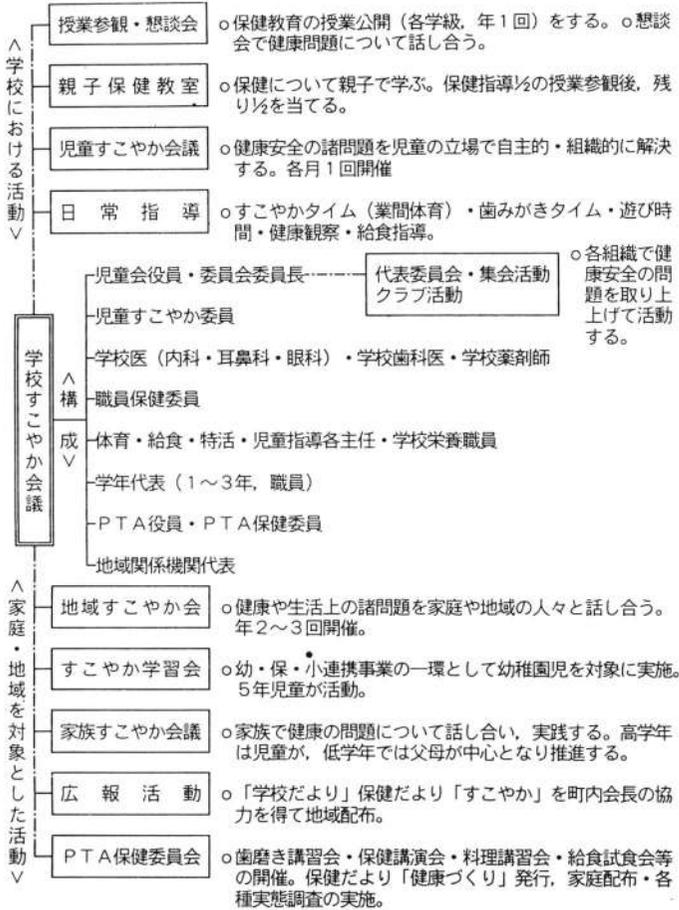
あお()日	き()日	みどり()日	あか()日
じぶん		せんせい	

はブラシのあてかた

けさきを はとはにくのさかいにあてて、よこに
ちいさく ちいさく うごかせよう。

- (6) 家庭・地域連携による健康生活の習慣形成を図る活動
 児童の健康生活の望ましい習慣形成を願い、学校すこやか会議
 (学校保健委員会) を軸とした多様な保健活動を展開している。

家庭・地域連携を進める構造図



家族すこやか会議 学校の歯みがき週間に合わせて実際にとりくんでいるところ



日曜授業参観で保健指導の公開「正しい姿勢」の授業



PTA主催の歯みがき講習会



地域すこやか会 地域にのけて子供たちの健康についての話し合い

4. おわりに

健康優良校中央表彰式の審査報告の中で、「間門小学校は、健康教育を長年にわたって継続し、今日まで多大なる成果を挙げている。また、学校すこやか会議を軸として多様な保健活動を展開する健康教育の充実、他校の模範でもある。何よりも感銘したことは、児童が健やかに育っており、生き生きとしていることである。また、児童が諸活動の牽引力になっている。

教職員の指導も実に行き届いている。」という過分な評価をいただいた。

ここに至るまでの父母や地域の方々の努力、そして健康教育を継続し、この道一筋に努力を傾注してきた教職員に改めて敬意を表したい。

と同時に、お誉めの言葉を励ましの言葉と受け止め極くあたりまえのことをあたりまえに実践し、更にすこやかな児童を育て、特色ある学校づくりに努力していきたい。10月8日(火)全国健康教育発表会の予定。



子どもが生きる健康づくり

一生涯にわたって、健康生活に
自ら立ち向かういなぶっ子の育成一

愛知県北設楽郡稲武町立稲武小学校

校長 金田 喜兵衛

1. 本校をとりまく自然とくらし

(1) 本校の位置

稲武町は、愛知県の北部山間地にあり、標高500m以上で急斜面が多く、東側は長野県に北側は岐阜県に接している。面積98.69km² (87.8%が山林)、世帯数1,021戸、人口3,683人 (平成2年5月1日現在)である。

水系は矢作川に属し、まわりをとりまく山林は、平野部の上水道・農工業用水の水源涵養林として重要な役割をはたしている。

交通面では、国道153号 (名古屋～塩尻) と257号 (浜松～恵那) が、町の中央で交差している。町役場から、名古屋市へ約72km、恵那市へ約40kmである。



(2) 学校の沿革

明治5年、郷学校「明月清風校」が武節村 (現在の稲武町中央部) に開かれて以来、教育を重要視しており、幾多の人材を世に送り出している。

昭和20年代には、6000人を超える人口であったが、年々減少してきた。そこで、昭和59年4月、町内の小学校5校1分校を統合し、21世紀へ向けての教育に対応できる機能を備えたオープンスクール形式の小学校として発足した。

開校当初より、潤いのある学校をめざして、植樹や



花壇づくりを進めている。

屋外には、鉄棒、砂場等の必須の施設に加えて、昭和63年度から、PTA・地域の方々の積極的な協力によってアスレチック遊具が完成した。また、運動場に沿って広がっている河川敷を利用しての体験広場も整えられている。これらを活用してトレーニングコースを学年に応じて設定した。

校地・校舎平面図



校舎内では、各学年の教室と普通2教室分のオープンスペースを備えていて、子どもたちが独自に調べたり、書いたりできる学習用備品が配置してある。又、山間高冷地を考慮して、可動式屋根付のプールがある。
▲児童数 275名 ▲ 教職員数 23名
学級数 13 (普通学級11、特殊学級2)



オープンスペースのある教室

2 本校のめざす健康教育

(1) 健康教育と教育課題

近年の科学技術の進歩は、物の豊かな社会を生みだし、物質万能の価値観を先行させ、ややもすると自己本位のもの考え方の子どもをつくり出し、それが多くの社会問題や教育課題を生みだしている。

また、少子化時代が親の過保護や、子どもの依存度を高め、飽食の時代がもたらした児童の肥満、成人病などの事例も生み出している。

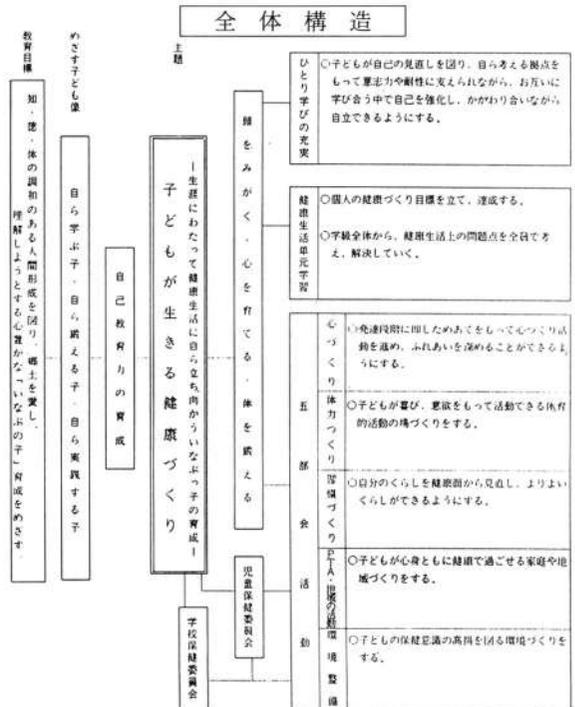
こうしたことから、子どもたちの心身の健康の増進を図るための基本的生活習慣の確立や、それを持続する意志力を培っていく健康教育は必須であり、学校教育目標の達成に不可欠であると考えた。

(2) 本校教育と健康教育の全体計画

本校では、21世紀への教育展望のもとに、研究主題を「自己教育力を育てる授業」に求め、ひとり学びの充実をめざして教科指導の実践を重ねてきた。

その後、自己教育力の育成を「心身ともに健康な国民の育成」「心身の調和的発達を図る」という健康教育の面から捉え直し、研究をすすめることが、学校教育目標達成の方途となるものであると考えた。

そこで、子どもたちが、単に生命を保つための条件の満足だけでなく、子ども自身が生涯にわたって「よりよく生きていく」ために積極的に健康生活に取りくんでいくことをめざして、研究主題「子どもが生きる健康づくり」を設定し、健康教育の全体構造を次のように考えた。



(3) めざす健康教育の活動内容

三つの柱	活動	内容
ひとり学びの充実 (ちえを育てる活動)	基礎的・基本的事項の習得 学習方法、技術の会得	はげみ学習 集団学習 手引き学習
健康生活単元学習 (健康づくり目標をたて、達成をめざす活動)	子どもたちの体験的、労作 的、主体的な探究活動	問題学習 資料的学習 オープントイム学習
心づくり 思いやりと たくましい心をつくる活動	あいつく運動の推進	○全校音楽集会 ○ふれあい活動 ・1年生を迎える会 ・どんと集会 ・あゆみ集会
	思いやりと たくましい心をつくる活動	○道徳、日常生活の適応指導
	力いっぱい体を動かす活動	・発達段階に応じた動きづくり ・様々な動きを取り入れたいなぶっ子体操 ・富士堂健「短式大鼓」の動きとリズムを取り入れた運動 ・絆まじい人間関係を育てる活動 ・ジャズダンスとエアロビクスを取り入れた体操 ○顔に応じた体力づくり
習慣づくり 健康で明るい生活習慣づくりの活動	生活の見直し	○基本的な生活習慣づくり ・「ひまわり運動」の推進 ひまわりひとりひとりでよいせい ま...まい日します食ごはみがき わ...わすれずします手あらいが り...リズム正しくのしいくらし ・むし歯予防集会 ・テレビ保健集会 ・かぜの予防集会
	生活習慣づくりの個人目標の設定	○生活習慣づくりの個人目標の設定
PTA・地域の活動 健康づくりに関心子どもを支援する PTA・地域の活動	親子で取り組む活動	・親子学習 ・親子花壇 ・学校保健委員会参加 ・地域ぐるみの活動 ・ごみゼロ運動 ・交通安全パレード
	親子で取り組む活動	・親子体力づくり ・よい生活習慣づくり ・家族のふれあい ・ジョギング大会
環境整備 健康生活をめざし、 自ら取り組む環境づくりの活動	子どもと取り組む保健ユーザーづくり	○子どもと取り組む保健ユーザーづくり
	健康生活をめざし、自ら取り組む環境づくりの活動	○児童保健委員会の保健啓蒙活動 ○子どもの手による美化活動 ○教師の働きかけによる活動

(4) 健康教育を補完する組織的活動

ア 学校保健委員会の活動

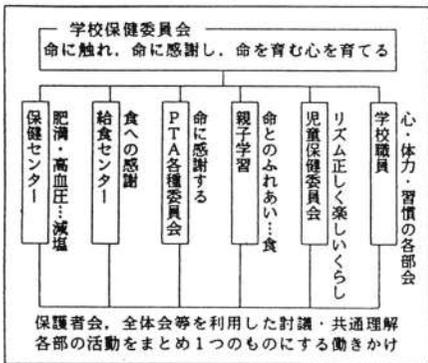
学校保健委員会の活動は、児童保健委員会、学校職員、PTAなどからの報告や問題提起、要望を受けて取り組みを展開している。

その組織と開催手順は、次の通りである。

学校保健委員会の開催手順



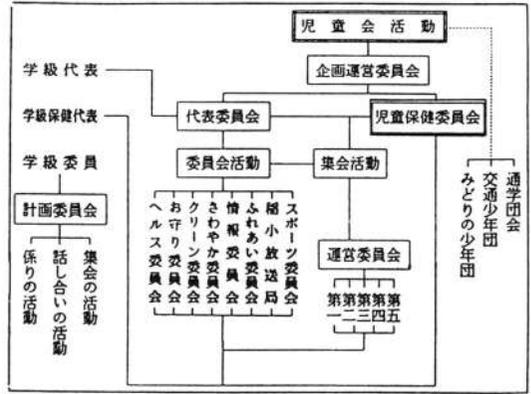
学校保健委員会の実践活動は、肥満傾向児の問題に端を発し、「ノーおやつデー」の提唱と食べることで、命との結びつきについての取り組みを、関係各組織と次のように連携して実践してきた。



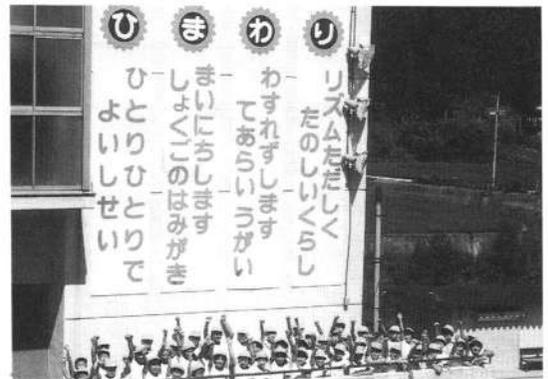
イ 児童保健委員会の活動

将来の健康な暮らしに対する子どもたちの意識を高めるためには、子ども同士が意欲を持って立ち向かうことが重要である。

児童が自分たちの考えを実践に移すことができる場と時間を設定して、その活動を支援している。

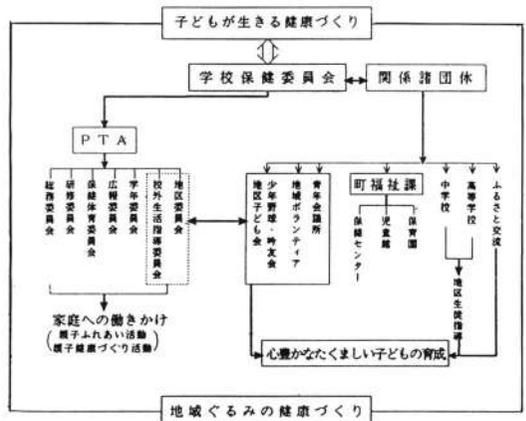


児童保健委員会を中心に生まれたのが、自分たちの生活を見直す「ひまわり運動」スローガンづくりと実践活動である。



ウ 家庭・地域との連携活動

21世紀に生きる心も体も頭もすこやかで元気な個々の育成は、関係諸団体と協力によって実現できるものであり、「地域ぐるみの健康づくり」を次のように捉えて推進している。



3 特色ある教育活動

(1) 自己教育力の育成

子どもたちが、学習への意欲を高め、学習への意志を形成していくこと、また、学習のしかたを習得して、ひとり学びのできる子に育っていくことを願っている。そのために、態様別授業を展開しており、週の計画及び目標は、担任裁量の時間帯と全校固定の時間帯とで構成している。

学習の態様別授業

<p>はげみ学習 (文字のはげみ・計算のはげみ)</p> <p>一人ひとりの子どもがそれぞれの自分の学習ペースを大切に、問題カードにしたがって、権定一点検一診断の順序で学習を進める。 教師の診断の結果、明らかになったまずは、当該学年の教師から個別もしくはグループで指導を受ける。</p>
<p>集団学習</p> <p>一斉指導を基本とし、その成果を診断しながら個別に理解の程度をとらえて、段階的に個別あるいはグループで学習を進める。 (2名以上の教師が協力して行う。一丁・丁方式)</p>
<p>手引き学習</p> <p>事前調査や診断テストによって子どもの実態をとらえ、単元を通して、具体的な学習の仕方を学習の手引きとしてコース別に構成する。そして、進め方、まとめ方を子どもが選択して学習を進める。</p>
<p>問題別学習</p> <p>教材に直面したときの、子どもの疑問や関心を軸に、学習課題をはっきりさせ、追求させる。課題解決の上での問題点を問題別に、ひとり調べやグループ討議によって学習を進め、全体で課題を解決していく。</p>
<p>合科的学習</p> <p>各教科・道徳・学級活動などを組み合わせ、中心とする教科の目標を達成するために展開する学習活動 (実施は1・2年生)</p>
<p>オープンタイム学習</p> <p>5・6年生が、ゆとりの時間を使い、教材にこだわることもなく、自分でやってみたいことを追究する場を与えている。ここでは、やること、やり方、まとめ方、教材、用具、時間配分まで自分で決め、教師と相談しながら進める。</p>

(2) 健康生活単元学習の構想

全校児童一人ひとりに「健康づくり目標」を立てさせ、その達成をめざす学習活動に、家庭との連携を密にして取り組んでいる。

単元例 1年「けんこうの木を育てよう」

目標 一人ひとりが自ら工夫して、よりよい生活習慣を身につけようとする気持ちを高める。

授業過程および教材構成の例

単元：1年生「けんこうの木を育てよう」



健康の木のもとで学習する子どもたち

家庭との連携を大切に、次のことを実施した。

- ・家庭での子どもの暮らしの観点別調査依頼
- ・「学年だより」による学習のようすの紹介
- ・子どもの取り組み観察と励ましのお願い
- ・「けんこうの木ありがとう集会」親子学習

(3) 健康な体づくりくいなぶっ子タイム>等

教科体育の授業や保健学習の充実、健康観察カードやはげみカードの活用によって自らの健康を保持管理し体力を増強するようにしている。

特に、毎週2回、2・3校時の業間30分を「くいなぶっ子タイム」と名付け、地域の心を伝える「稲武太鼓」に、柔軟性を高めることを組み合わせた体操や固定遊具などを使った運動を全校で実施している。



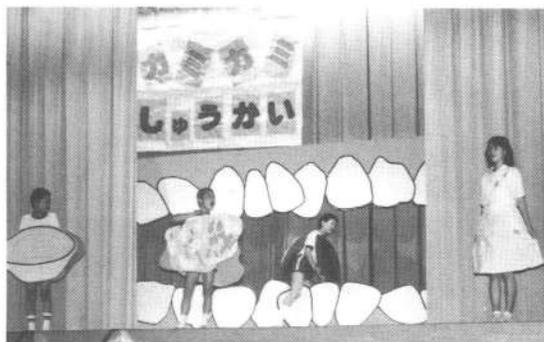
「くいなぶっ子タイム」の活動<朝日新聞社提供>

(4) ふれあいを深め学ぶ集会活動

委員会が中心になって企画運営し、縦割りグループ単位で参加する活動である。

- 五月集会…1年生を迎える集会 (ふれあい委員会・さわやか委員会)
- カミカミ集会…かむことについての保健集会 (ヘルス委員会・お守り委員会)
- ながいき集会…成人病を考え、体を鍛える集会 (ヘルス委員会・スポーツ委員会)
- どんと集会…新年を迎える集会 (稲武放送局・情報委員会)
- ゴミゼロ集会…校内美化についての集会 (クリーン委員会)

ヘルス委員会とお守り委員会が協力して取り組んだ「カミカミ集会—かむことについての保健集会」では、子どもたちの歯についての疑問に、直接歯科医さんに答えていただいたり、創作劇を上演したりしている。



「あごがはずれた元気君」の一場面

(5) 地域との連携を図る活動

ア 地域花壇

通学地区ごとに、親子で管理に当たっている。



イ 食生活の見直し

家庭科の学習では、農薬や添加物使用の現代食品を例にあげ食生活を考えさせたり、町給食センターとの連携のもとに学校給食を見直している。

給食の見直し点

(購入食品、材料等)

- ・加工食品(冷凍食品・缶詰など)を減らす。
- ・野菜・果物等多種類の食品を使用する
- ・ゼリー・アイスクリーム等おやつに近い物を減らす。
- ・柔らかい物に偏らないようにする。(調理法等)
- ・揚げ物に頼らず、オープン等を利用するなど料理のレパートリーを増やす。
- ・手作りでできる物はできるだけ手作りにする。

ウ オープンタイム学習

自己教育力を育てる授業構想に基づき、オープンタイム学習を実施している。ここでは児童の学習要求に応じてくれるボランティアを広く地域に求めている。

平成元年度 ボランティア教室開催講座

教室名	講師名	担当	場所	教室名	講師名	担当	場所
田子づくり	H・M 先生	M 先生	調理室 被服室	竹とんぼづくり	A・S 先生	S 先生	運動場 体育室
五平餅づくり	A・S 先生	S 先生 O 先生	講師宅	竹細工	I・K 先生	I 先生 O 先生	図工室
草木染め	K・T 先生	K 先生	講師宅	げたづくり	H・K 先生	Y 先生	たい-
からすみづくり	A・T 先生	M 先生	調理室	袋づくり	H・K 先生	K 先生	6年教室
お手玉づくり	H・U 先生	S 先生	特別室	旧運動場	M・Y 先生	I 先生	ホール

(6) 思いやりとたくましい心をつくる活動

クリーン委員会や、さわやか委員会では、「ちいさないなぶっ子運動」と名付けた、給食の牛乳キャップやパックの利用や、栽培活動、あいさつ運動に取り組んでいる。



心身に障害を持つ子には、交流学习や生活単元学習等を組んで、生きていく力づくりを支援している。

(7) PTA、その他の活動

PTAとしては、次のような活動を実施している。

PTA各委員活動

保健体育委員会	親子学習実践集録発行
広報委員会	機関紙「いなほ」で保健活動の紹介
研修委員会	親子の触れ合い活動報告書編集
校外生活指導委員会	交通安全街頭指導、非行防止パトロール

町民の健康をあずかる機関としての、町保健センターから健康教育の支援があり、バス通学児童への配慮として児童館もあって、心のオアシスとなっている。

4 おわりに

中央審査委員武田真太郎(和歌山県立医大教授)先生から、次のような講評をいただいた。

「整備された施設、設備の機能をフルに活用するよう工夫、研究しており、児童もそれによく応えているのが特徴であろう。

健康生活単元学習のひとつとして、社会、理科などの教科の中からも健康にかかわる部分をピックアップし、まとまった形で健康教育をしている。

安全教育にも熱心で、小刀、のこぎり等の道具を使って手作りの楽しさを教えることで成果を上げている。管理・予防とは違い、積極的に取り組む姿勢は評価できる。」

今後、御講評いただいたところを更に探求し、21世紀に向けての健康教育のあり方を求めて、子どもたちや地域の人々と共に取り組みを強化していきたい。



北風の中で強く生きる屏風山の子ども

— 健康な心と体づくりにはげむ —

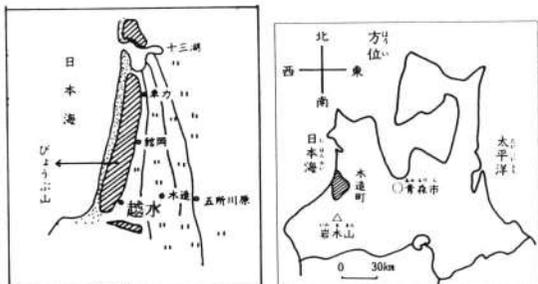
青森県西津軽郡木造町立越水小学校

校長 平間 又 子

はじめに

日本海から激しく吹きつける潮風と飛砂から自然を守る人工樹林帯は、三百余年の昔に人々の血の滲む苦心によってつくられた。幅4km、延長30kmに及ぶ舌状砂丘の黒松林を『屏風山』と呼んでいる。

また、近郷からは多くの縄文土器、土偶が発見されている。特に晩期のものは「亀ヶ岡式」と命名されて世に知られている。有名な遮光土偶は重要文化財に指定され、文化庁で保存している。



木造町のまわりのようす

厳しい風土の下、叡智に富んだ祖先は荒野を切り開いて豊かな土地とし、美しい郷土をつくり、生きる知恵を伝えてくれた。地域の人々も子ども達も、その強靱な父祖の血を脈脈と受け継いでいる。

本校は青森県の西北部、海岸より6km内陸の平坦地津軽平野の一隅に位置する。本町より10km離れた純農村地帯。屏風山に守られて耕作している農耕地では、水稻・果樹・スイカ・メロンがつくられている。

1. 本校がめざす健康教育

①生き抜く気力を培う

子どもは地域の中で育つ。子どもがふれる生活文化・



風土・自然が子どもにも与える影響は大きい。それ故「環境は教育である」と断じて疑わない。

激しい労働に培われてきた地域の人々の生活と気質も重要な遺産であり、子どもが受け継ぐ文化である。郷土に生まれたことを誇りにし、21世紀をたくましく生き抜いて、社会に貢献する人間づくりをすることが大事である。

しかし、近年、子どもをとり巻く状況は変化が著し



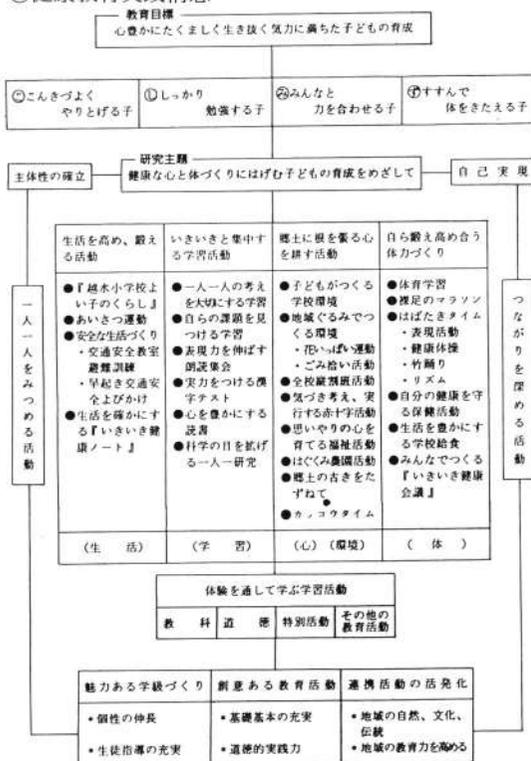
全校の子どもがスキーをはいて毎日走る

く、人間の生きかたに新たな問題を投げかけてくる。豊かな物質は人々の生活を大きく変え、子どもの生活に逆作用して自然な育ちを阻害し、生きる力を弱めている。

優れた資質を内包する子ども達の生活を掘り起こし、本来持っているたくましさやみずみずしさを回復することが本校の教育課題であると捉え、昭和60年度より地域ぐるみの健康教育を推進してきた。

学区の人口1190名。現在104名の児童。学校創立114年。秀麗岩木山を日々仰いで互いに向上しようと意欲的に取り組んでいる。

②健康教育実践構想

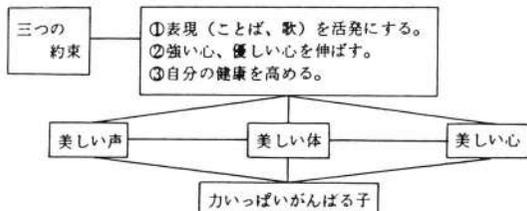


③本校の児童、教師、学校像

●明るく躍動している学校

教育目標	めざす像	子ども像	教師像	学校像
◎んきつよく やりとげの子	おぼろ強くやり通す子ども	一人一人の子を確実に伸ばす教師		明るく躍動している学校
①しっかり 勉強する子	課題意識を持って、学習を深める子ども	研鑽に努力し、誠実で父母の信頼に堪える教師		
②んたと仲良く力を合わせる子	郷土やまわりの人達を大切にすることも	子どもに心から親しみ、魂のふれあいを大切にす教師		
③すんで 体をきたえる子	たくましい体力づくりににはげむ子ども	健康で明るく、気迫に満ちている教師		

●児童の活動目標



グラウンドにひびく歓声

2. 主な実践活動

①いきいきと集中する学習

●一人一人の考えを大切に学習づくり

子どもの言語活動は子どもをとりまく言語環境によって大きい影響をうける。学校生活全体における言語環境を整えていくことにより、知的な発達や豊かな心情を得させるものであるとして、特に国語科中心に「自分の考えをしっかりと持ち、きちんとと言える主体性をそだてる」授業に力を置いている。



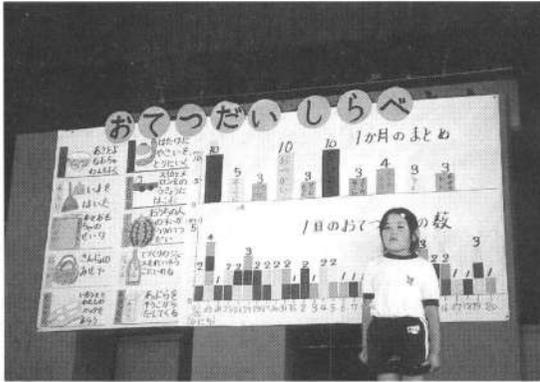
高学年の授業参観をする子ども達

●科学の目を拓げる一人一研究

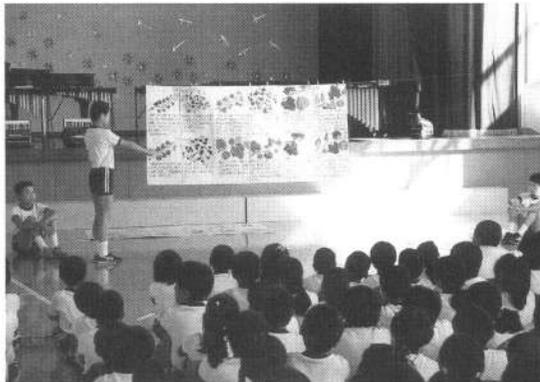
長期の休業を活用して体験的な研究に取り組みせ、観察力、忍耐力、追求心を身につけさせている。

一人一人の子どもが自分で研究する対象を決めて学担の教師と話し合い、内容や方向を明確にする。身近な生活にしっかりと目をむけて問題を発見し、問題を解決していく過程を通して日常生活を高めていく意欲につなげている。

長期休業終了後は各自発表資料を作成し、学年においてミニ発表会をおこなう。その中で子ども達どうし話し合いの結果学年代表を決めて「全校研究発表会」をもっている。



1年生の発表



「メロンづくり」の研究発表

②生活を高め鍛える活動

●安全な生活と明るい挨拶

地域ぐるみの安全意識を高めるために、学校との安全教室とは別に、児童会が独自に夏休み期間中「早起き交通安全よびかけ」運動を展開する。

これは13年の長きにわたり、地域の人々に支えられて実施してきた伝統的な活動である。

子ども達は地区ごとに朝のラジオ体操終了後、6年生をリーダーとして拍子木を打ちながら地区を巡回して呼びかける。大人に呼びかけることで注意してもらえるし、自分達も安全意識を向上させる効果は大きい。

●「いきいき健康ノート」



現在死亡事故7700日ゼロ行進

子どもは一日一日の生活を楽しく希望をもって過ごすことが大切である。そのため、直面するすべての活動や経験が充足感のあるものであり、毎日の生活が向上しようとする意欲と結びつくものでなければいけない。

一人一人の子どもが、自分の生活、行動を記録することにより、自己をしっかり見つめていく一助として「いきいき健康ノート」を活用して豊かな心を育てている。

ノートは父母も教師も言葉を書き添え、共に語り合う場にもなっており、生活習慣の形成、心の健康づくりの中心になっている。



③郷土に根を張る心を耕す活動

●思いやりの心を育てる

気づき、考え、実行する精神が息づく青少年赤十字活動。地域の老人との交流、老人ホームの孫活動、手話の習得を学ぶ福祉協力活動と、互いに助け合い高め合う生活をめざして実行している。



老人ホームで1日孫活動



外国の先生との交流会を持ち 親しく接して人はみんな仲良く出来ることを理解する

●はぐくみ農園

汗を流して働くことを通して勤労の精神を学び創造の喜びを得させる。子ども達は自然と地域の人々との関わりの中で、心の豊かさやたくましさを増していく。スイカ、メロン、大豆などを栽培して父母の仕事や生活を理解する。



たくさんとれたスイカは給食時に試食する

④自ら鍛え高め合う体力づくり

●はばたきタイム (体育集会)



竹踊りのしかたも自分達で工夫してたのしく

教科体育で培ってきた体力や運動能力をもとにして、全校の子どもが集い協力して運動する楽しい時間とする。リズム運動・竹踊り・越水いきいき体操・表現運動・水泳・スキー・縄とび・はだしマラソンなどを活発に行っている。



大地に足をつけてしなやかな体づくり

おわりに

一人の子が、今回の受賞を機に「……みんなの努力が今ここに表れたのだ。さらに新しく自分の道を見つけて頑張っていこうと思う」と書いている。

子ども達は一段とたくましさを増し、表情が明るくなった。学校を訪れる人達も、「子どもの目が輝いている。態度や行動が自信にあふれ風格が出てきた」などと感想を寄せてくれる。

子ども達が、心豊かでたくましく育ち、へき地性からの脱却を図る本校の健康教育は、小さいながらも実を結んできた。これからは、学校、家庭、地域が信頼の絆をより強めて好ましい環境をつくり、よい姿を示していくつもりである。地域社会の中で、学校は学び続ける生涯学習の中心でなければならない。

1990年度健康優良学校 全国特別優秀校・全国優秀校

大規模の部（18学級以上）

全国特別優秀校	神奈川県横浜市立間門小学校
全国優秀校	埼玉県越谷市立大袋小学校
全国優秀校	京都府久世郡久御山町立佐山小学校
全国優秀校	愛媛県伊予郡砥部町立麻生小学校

中規模の部（7～17学級）

全国特別優秀校	愛知県北設楽郡稲武町立稲武小学校
全国優秀校	茨城県稲敷郡河内村立金江津小学校
全国優秀校	富山県小矢部市立東部小学校
全国優秀校	山形県酒田市立松陵小学校

小規模の部（6学級以下）

全国特別優秀校	青森県西津軽郡木造町立越水小学校
全国優秀校	島根県飯石郡三刀屋町立飯石小学校
全国優秀校	岡山県上房郡有漢町立有漢西小学校
全国優秀校	山口県下松市立豊井小学校

育ちざかりの
ひと粒！



体力をつけ健康を保つ

歯・骨を丈夫に……

カワイ肝油ドロップ



河合製薬株式会社

東京都中野区新井2-51-8